

特別付録 太陽光発電 複合化時代の新ビジネス

PVeye

太陽光発電の専門メディア


2017
Vol.60

3

March

定価 1,940 円

勢力図が塗り替わる!?
**白熱PCS商戦に表れた
メーカーの明暗**



EPC必見!
**土地造成費
削減マニュアル**

Product 004

カナメ

積雪地域向け屋根一体型太陽光パネルを発売

金属屋根製造のカナメ(栃木県宇都宮市、吉原正博社長)は、2月1日から積雪地域向けに屋根一体型太陽光パネルの販売を開始した。雪が滑り落ちやすい構造の従来製品に、低照度パネルを搭載し、積雪2m地域の冬期でも安定して発電するようにした。積雪地域での優位性を示し、販路の拡大を目指す。

同社は、自社開発の屋根一体型太陽光パネルを全国580社に卸販売しており、東北や北陸などの積雪地域では100件ほどの施工実績がある。それらの地域では、冬期の実発電量が、パネルメ

ーカーのシミュレーション値を3割から4割上回る傾向が多数みられたという。同社は調査・研究を進め、このほど雪国専用に改良した新製品の開発に至った。

総務部マーケティング課の越雲聡明課長によると、屋根一体型太陽光パネルの開発当初は、積雪地域への対応を考えてはなかったそうだが、意匠性や施工性にこだわった設計が奏功したという。「屋根専門メーカーとして、美しい屋根作りにも尋常でないこだわりを持っていた。屋根の凹凸を極力減らした設計が雪を滑り落とし、冬でも安定した発電量をもら



屋根一体型太陽光パネルは金属屋根と比べても雪を滑り落としやすいという

すことが分かった」(越雲課長)。新製品には、日照が弱い場合でも高い変換効率が期待できるというハンファQセルズ製の低照

度パネルを新たに採用した。新製品の名称は「スノーソーラー」。2017年度は3MWの出荷を目指す。☑

Product 005

フタバ企画

5回路同時計測のストリング監視装置発売

計測装置開発のフタバ企画(東京都千代田区、安藤ルミ社長)は、2月15日から多回路ストリング監視装置を発売した。1台で最大5回路分のストリングを同時に監視できる。機能を電流計測に

集約し、低コストでの導入が可能なたため、小規模発電所を主軸に販売を拡大していく。

同製品は、太陽光発電所の接続箱に非接触の分割クランプを取り付けることで、ストリング毎の電流を計測する。本体同士を数珠つなぎで接続すれば、最大16台の多段接続が可能で、通常の使用方法なら500kW程度の太陽光発電所まで計測できる。別売りのIoT/M2Mゲートウェイを併用することで、オンラインによる24時間のリモート監視が可能だ。

監視装置本体はオープン価格

だが、参考価格は税抜3万円。他にストリングなどと接続するためのCTやケーブルは必要になるが、機能を電流計測に限定したことで安価な価格設定にした。安藤社長は、「小規模発電所のオーナーは、投資回収までのスピードを第一に考えている。できるだけ安価に健全性チェックができるようにと、必要な機能を絞って装置もコンパクトにした」とアピールする。

発売後は既存の取引先への提案や問い合わせに対応しながら、まずは1000台の販売を目指す。☑



多回路エネルギー診断メーター『MPM-DC-5PORT-MODBUS』